

田舎暮らしを満喫 つがる市まるごと交流・移住・体験ツアー



柏地区でりんごの収穫体験を楽しむ参加者（1回目）

首都圏からつがる市への移住を目指す「まるごと交流・移住・体験ツアー」が11月15日から17日までと22日から24日までの2回行われ、首都圏からの参加者（1回目12人、2回目10人）がつがる市を訪れました。これは、市、市商工会、市フィルムコミッションが過疎地域の活性化とつがる市への移住促進を目的に実施。りんごの収穫体験や街歩きなどのほか不動産物件の見学会も行われ、参加者は市内の売り家や土地を見て回り、価格や冬の除雪態勢などについて質問をしていました。参加者は新鮮な農産物を購入し旬の味覚を味わうなど、つがる市の魅力を堪能し、市民らと交流を深めながら田舎暮らしを満喫していました。



木造地区の空き家物件を見学（1回目）



稲垣地区の古民家で漆塗を体験（2回目）



登山囃子の演奏に挑戦（2回目）

参加者の声

楽しい体験ばかりでした。つがる市木造出身ですが、りんごの収穫は初めてで新鮮でした。都会は人は多いが、つながりがうすい。ここでは人と人がお互いに助け合い、「輪」と「和」があって人間的な豊かさを感じました。食料を生み出す雄大な大地、おいしい空気、人のやさしさなど、つがる市には魅力がたくさんあると思います。地価も驚くほど安い。都市からの移住を進めるためには、地元で仕事ができる場が必要だと思っています。雇用の場を作り、田舎の良さを大切にしながら、ふるさとの魅力を積極的に発信すれば、例えば都市で退職を迎える方のUターンやIターンに結びつくのではないかと思います。



斎藤きよ子さん
（埼玉県在住）

国営岩木川左岸農業水利事業が完工

平成8年度から用排水施設の改修などを行ってきた国営岩木川左岸農業水利事業が今年度末で完了することになり、10月31日、松の館で完工式が行われ、関係者約150人が17年に渡る事業の完了を祝いました。同事業の受益面積は、つがる市、弘前市、五所川原市、鶴田町の1万530ヘクタール、総事業費約650億円。用水の安定供給や水田の高度利用を図るため、老朽化した地区内の水路や揚排水機場などの新設・改修工事が行われてきました。

完工式では、東北農政局の佐々木康雄局長が「本事業により地域全体としての食料生産の体質強化が一層図られることを期待します」とあいさつし、岩木川左岸地区土地改良事業促進協議会長の福島市長が謝辞を述べました。



完工式で謝辞を述べる福島市長

車力中学校野球部が県新人大会で初優勝

車力中学校野球部（高橋修監督）が第28回青森県中学校新人野球大会（10月5日、6日、鰺ヶ沢町）で初優勝を飾り、11月5日、福島市長に報告しました。

西つがる地区の予選で優勝した同校野球部は、各地区代表の10チームによるトーナメントで対戦。3戦すべて1対0のサヨナラ勝ちで勝利し、念願の初優勝を手にしました。高橋監督は「1点を与えないというプレッシャーに勝ち、苦

しい中にも力を発揮してくれた。地元の皆さんも大変喜んで」と報告すると、キャプテンの対馬竜之介君（2年）は「接戦を勝つごとにチームが自信を付け成長できた。最後まであきらめない精神をもっと鍛え、今後の大会でも優勝を目指していく」と力強く話していました。



初優勝を報告する車力中学校野球部のメンバー

小野さん（車力中3年）が県少年防犯弁論大会で最優秀賞



最優秀賞に輝いた小野さん。右は佐々木幸次校長

小野花菜さん（車力中3年）が第61回青森県少年防犯弁論大会西部大会（9月27日、弘前市）で見事最優秀賞に輝き、11月5日、福島市長に報告しました。

大会は青森県防犯協会連合会が主催したもので、弘前、五所川原、黒石など8地区の代表12人が出場。小野さんは「ありがとうのキッカケ」と題して、特別支援学級の友人のおばあさんからお礼を言われたことを通して、言葉に込められた思いを実感した体験談を発表しました。小野さんは「言葉は、ただ言うものではなく、思いを込めることが大切だということを伝えたかった。優勝できて本当にうれしい」と笑顔で話していました。

おはなしサークル「おひさま」が全国優良読書グループ表彰

読書推進活動に努める、おはなしサークル「おひさま」（松木文子代表）が第46回全国優良読書グループ表彰を受賞しました。

同会は、向陽小学校PTA図書委員会が地域にも読書の輪を広めようと平成15年に発足。現在は会員15人で児童館や保育所、高齢者も対象に市内外で読み聞かせ活動などを行っています。10月31日、葛西教育長から表彰状の伝達を受けた松木さんは「設立して10年の節目に大きな賞をいただいて光栄です。子どもたちに元気を与えようと思っていても、逆に私たちが元気をもらっています」と、副代表の蝦名道子さんは「会員の特技を生かして歌ったり、踊ったり、手話を取り入れたりして大人にも楽しんでもらっています」と話していました。



表彰状を手にする松木さん(右)と蝦名さん

中野イネさん100歳長寿おめでとう

中野イネさん（木造）が10月28日、満100歳を迎えられ、長寿を祝いました。

中野さんは大正2年生まれ。夫の直吉さんと農業を営み、子6人、孫12人、ひ孫20人、玄孫1人に恵まれ、現在は自宅で家族とともに暮らしています。この日は、自宅を訪れた福島市長が「おめでとうございます。これからも長生きしてください」と顕彰状と花束を手渡すと、中野さんは「ありがとうございます」とお礼を述べました。中野さんはデイサービスへ通いながら元気に暮らし、早寝早起きの生活でテレビを見るのが好きだそうです。長男の妻のツヤさんによると好き嫌いなく何でも食べるのが長寿の秘訣ではないかと話していました。



顕彰状を手にする中野イネさん

福士義雄さん100歳長寿祝う

福士義雄さん（木造）が11月18日、満100歳を迎えられ、顕彰状授与式が行われました。

福士さんは大正2年生まれで、昭和32年から49年まで木造町消防署に勤務。子5人、孫7人、ひ孫8人に恵まれ、現在は自宅で家族とともに暮らしています。

この日、福島市長が自宅を訪れ、福士さんに顕彰状と花束を手渡し、長寿を祝いました。同居する長女の久子さんによると、福士さんは好き嫌いなく何でも食べ、特に焼肉は大好物だそうです。最近は大きな病気もなく、ストレスをためないでマイペースで暮らすことが長生きにつながっているのではないかと久子さんは話していました。



100歳の誕生日を迎えた福士義雄さん

ハロウィン体験で英会話学ぶ

米陸軍車力通信所が航空自衛隊車力分屯基地内で英会話教室を開催し、富沼小学校、車力小学校の児童が英語の基礎やアメリカ文化について学んでいます。

10月31日は9人の児童がハロウィンの仮装をして参加し、アメリカの音楽や、じゃんけんゲームなどを通して英語に親しみました。また、1人ずつ英語で「Trick or Treat（お菓子をくれなきゃいたずらするぞ）」とあいさつしてお菓子をもらい、本場のハロウィンを体験しました。坂本夢真さん（車力小2年）は「英語を話してとても楽しかった」と話し、車力通信所のストックトン少佐は「アメリカの文化を伝えるいい機会。子どもたちと交流を深めることができてよかった」と話していました。



ハロウィンのカードを使ったゲームを楽しむ参加者



市役所を訪れ花やお菓子をプレゼントする園児たち

毎日のお仕事ご苦労さま

勤労感謝の日を前に11月2日、木造西幼稚園（吉田節子園長）の園児15人が市役所を訪れ「毎日のお仕事ご苦労様です。これからもがんばってください」と職員らに感謝の気持ちを伝えました。

園児たちは、手作りのカレンダーとシクラメンの鉢植え、お菓子をプレゼントした後、鍵盤ハーモニカの合奏を披露しました。福島市長は「市役所に来てくれてありがとうございます。みなさんが笑顔で明るく幼稚園に通えるよう仕事をがんばりますので、皆さんも先生の言うことをよく聞いて明るく元気に過ごしてください」とお礼の言葉を述べ、プレゼントを手渡しました。



読書の楽しさに触れる

地域における読書活動を推進しようと11月2日、松の館で「つがる市読書まつり」が開催され、親子連れなど多くの市民が読書の楽しさに触れました。

会場では、おはなしサークル「おひさま」、はっぴーすまいる、稲垣読書愛好会、つがる野文庫の会の会員が絵本の読み聞かせをしたほか、盛岡市で「歌のおじさん」として親しまれている佐々木草さんがギターの演奏と読み聞かせを披露。子どもたちは目を輝かせながら歌と物語を聞き入っていました。また、市内の図書室の廃棄本のリサイクルコーナーでは、来場者がお気に入りの本を探し求めていました。



絵本の読み聞かせを楽しむ子どもたち



修了証を受け取る尾野洋子さん

学ぶ意欲いつまでも

平成25年度つがる市長寿大学閉講式が11月7日、松の館で行われ、162人の“学生”が修了しました。今年度は体と脳のトレーニング、田小屋野貝塚遺跡についての研修、民謡の鑑賞など幅広い内容で計7回の講座が開催されました。

閉講式では、学長の葛西教育長が各地区の代表者に修了証書を手渡し、「新たな仲間づくりと自ら学ぶ姿勢を感じました。長寿大学を通して、自立した生活ができる『健康寿命』が延びることを期待します」とあいさつ。小山内兼一運営委員長が「向上心を持ち、家族や社会に役立つことが大切。7年後の東京オリンピックを元気に見られるようがんばりましょう」と学生代表の言葉を述べました。

地元食材でヘルシーフッキング

食育推進のため、10月22日、市食育推進応援隊（藤本フミ子代表）が松の館でヘルシーフッキング教室を開催し、つがる市産の農産物を使ったカロリー・塩分控えめの栄養バランスのとれた料理を学びました。

この日は同隊木造女性部の指導のもと、17人の市民が、厚揚げの中華あんかけ、オクラのスープ、豚肉のおこわ、桃の春巻を作りました。参加した伊藤ヒサさん（木造）は「簡単にヘルシーで、応用もきくいい献立だと思う」と、沼端美鈴さん（富范町）は「初めて参加しましたが、楽しく作ることができて勉強にもなった」と話し、参加者は出来栄に満足していました。



レシピを見ながら調理する参加者



車いすを寄贈する林支部長（右から2人目）

福祉に役立てて

県遊戯業協同組合西北支部（林成鎬支部長）が社会貢献活動の一環として11月12日、市に車いすを寄贈しました。同支部では、今年度、つがる市の他、五所川原市、板柳町、中泊町にも1台ずつ寄贈。この日は、車いすを製作した境谷自動車の境谷兼弘社長が「リクライニング機能を備え、高い安定性が特長」と説明。林支部長が「地域のために貢献できればという思いで活動を続けています。福祉に役立ててください」と目録を手渡すと、福島市長は「すばらしい車いすをありがとうございます。大切にに使わせていただきます」とお礼を述べました。

寄贈された車いすは松の館に設置されています。